

目指す学校像	「心ゆたかに かしこく たくましく」の具現化をめざし、明るく、活気に満ち、「凡事徹底」を重んじる学校 安心・安全な潤いのある学校、地域とともに歩む信頼される学校づくりを推進する
--------	---

重点目標	1 学びの自律に向けた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 2 豊かな感性や人間性をはぐくみ、安心・安全な学校教育の推進 3 学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有するコミュニティスクールの推進 4 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being) に対応した教職員組織の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○令和4年度の全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果から、国語、算数ともに概ね良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、タブレット等で調べたことをまとめ、整理して友達に対して表現することに意欲的に取り組む児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的な回答の割合が年々高くなっているが、市平均と比べるとやや低い。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果から「算数の勉強は好き」の肯定的回答を向上させることが課題である。	・学びの自律化に向けたICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 ・主体的に学ぶ楽しさを実感できる「大砂土東小 STEAMS TIME」の実施	①タブレット機器やミライシード等を最大限活用し、データ化された情報をもとに児童が主体的に取り組むアクティブ・ラーニング型授業を行い、児童の資質・能力の向上を図る。 ②全国や市の学習状況調査結果を基に、「話し合う活動を通じた自分の考えの深め方等」について、学力向上カウンセリング研修を踏まえ、学力向上に向けた具体的な手立てを設定し授業実践を行うことができたか。	①全ての教職員が1回以上、教科やテーマ等を決めて、ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング型授業を行い、効果を検証することができたか。 ②全国や市の学習状況調査結果を分析し、学力向上カウンセリング研修を踏まえ、学力向上に向けた具体的な手立てを設定し授業実践を行うことができたか。	①全ての教職員が1回以上、教科やテーマ等を決めて、ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施することができた。児童の資質、能力について、市教委が作成した学びの指標の数値から、児童の主体的な学びの項目が市平均を上回った。 ②全国や市の学習状況調査結果を分析し、学力向上カウンセリング研修を踏まえ、学力向上に合わせた授業実践を行うことができた。	B	全ての教職員が、児童の資質・能力の向上を図るためICT機器を効果的に活用した授業を実施したが、手立ての検証が不十分である。次年度は、大学教授や先進的な教育実践者に指導を仰ぎ、ICT機器等を活用した効果的な指導方法等について、研究を深め効果的な手立てを検証する。また、引き続き全国や市の学習状況調査結果の分析に努め、授業改善を図る。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・教職員のICT機器の活用に差があるように思う。教職員一人ひとりのICT機器を活用した指導が充実するような研修等の取組を実施すべきである。 ・主体的な学びを意識した授業や指導を引き続き実施することを求める。家庭などでも、自ら進んで学習に取り組めるようになるとうよい。
2	<現状> ○令和4年度の全国学力・学習状況調査結果から、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国や市の平均を上回っている。 ○生徒指導、教育相談、特別支援教育、アレルギー対応などで配慮を要する児童について、組織的に情報を共有している。 ○いじめ等の事案に対して、報告・連絡・相談を確実に早い早期発見・早期対応を行っている。 <課題> ○児童一人ひとりの心身の状況を的確に把握し、教職員が連携協働しながら、組織的に支援・相談できる体制づくりを継続する必要がある。 ○危機管理を徹底し、児童が安心して学校生活を送ることができる取組を継続する必要がある。	・児童一人ひとりへのニーズに応じた教育の実施 ・児童一人ひとりに応じた健康・安全指導の徹底	①積極的な生徒指導（分かる授業の実践・あいさつの励行等）を推進し達成感や充実感を味わわせる。 ②生徒指導・教育相談部会において、いじめや不登校などの児童の情報を教職員同士が共有し、組織的に問題解決の手立てを講じる。	①学校評価に係る教職員アンケートにおいて、積極的な生徒指導に関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校評価に係る児童、保護者アンケートにおいて、いじめや不登校などの対応に関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①学校評価に係る教職員アンケートにおいて、児童一人ひとりへのニーズに応じた積極的な生徒指導に関する項目の肯定的な回答の割合が94%となった。 ②学校評価に係る児童、保護者アンケートにおいて、いじめや不登校などの対応に関する項目の肯定的な回答の割合が児童96%保護者90%となった。	A	全ての児童が学校生活に対して肯定的に受け止めることができるよう、次年度は、児童同士の温かな人間関係の構築を重視した学級経営の充実に重点を置く。いじめ、不登校の問題については、組織力を高めるようさらに迅速な教職員間の情報共有と対応を実施し児童の一人ひとりのニーズに応える。	
3	<現状> ○学校運営協議会において、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、連携・協働していく取組を実施する方針である。 ○保護者会、公開授業、学校行事等の機会を活用し、家庭、地域との相互理解を深め、信頼関係の構築を図っている。 <課題> ○学校運営協議会での熟議を通して、目指す児童の姿を学校、家庭、地域で共有するだけでなく、児童一人ひとりが目指す児童像に迫れるようにしていくことが課題である。	・目指す児童像を家庭・地域で共有するための積極的な教育活動の公開、情報発信 ・「砂東・5つのいっばい」実現に向けたコミュニティスクールの実施	①授業・行事等において、地域の人材、各種ボランティアや教育力を積極的に活用し、児童の実態を見ていただく機会を増やす。 ②学校HPに、学校運営協議会で熟議した内容を発信することで、目指す児童像を幅広く共有する。	①学校評価に係る保護者アンケートにおいて、地域とともにある学校づくりに関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校評価に係る保護者アンケートにおいて、「目指す児童像に関心が高まった」と回答する割合が90%以上となったか。	①学校評価に係る保護者アンケートにおいて、地域とともにある学校づくりに関する項目の肯定的な回答の割合が91%となった。 ②学校評価に係る保護者アンケートにおいて、「目指す児童像に関心が高まった」と回答する割合が80%であった。	B	コロナ禍を経て、授業や学校行事等を保護者、地域の皆様に公開する機会が増えたが、次年度は、カリキュラムマネジメントの視点から情報発信の内容を精査する。 次年度は、1週間に2回以上、学校ホームページを更新し、児童の教育活動の様子をさらに積極的に発信する。	
4	<現状> ○タブレット等のICT機器の効果的な活用方法をエバンジェリストが推進役となり、教職員がOJTを重ねている。 ○学校課題研修に係る公開研究授業を年間3回以上行い、自分の考えや思いをもち、進んで表現できる児童の育成を図っている。 <課題> ○ICTの活用について、教職員間での取組の差が見られるため、教職員同士で学び合える職場の環境づくりが課題である。 ○学校行事、学習指導の準備、生徒指導等の対応など、教職員が業務を効率的に実施することが課題である。	・教職員一人ひとりが力を発揮し子どもたちの多様な幸せ(Well-Being)を実現する研修の実施 ・教職員一人ひとりに応じた働き方改革の実施	①全ての教職員が、年間1回以上自ら教科等のテーマを設定した「アクティブ・ラーニング型授業」を実施する。 ②年間ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学校課題研修に係る研究授業を3回以上実施し成果や課題を全ての教職員で共有し授業改善を図る。	①全ての教職員が自己評価シートに設定した「アクティブ・ラーニング型授業」を実施することができたか。 ②「学びの指標」の児童アンケート項目にある「ICTの活用」及び「探究的な学び」に係る項目で肯定的な回答が80%以上となったか。	①全ての教職員が自己評価シートに設定した「アクティブ・ラーニング型授業」を実施することができた。 ②「学びの指標」の児童アンケート項目にある「ICTの活用」及び「探究的な学び」に係る項目で肯定的な回答が「ICTの活用」で82%、「探究的な学び」で85%となった。	A	全ての教職員が、「アクティブ・ラーニング型授業」を実践できたが、ICTを効果的に活用した指導方法等の状況については、教職員によって差が生じている。次年度は、さらに全ての教職員が「アクティブ・ラーニング型授業」の充実を図ることができるよう、日課を工夫して教職員が確実に研修に取り組む時間を確保する。 次年度は、さらに会議や行事等の精選を行い教職員が児童と向き合う時間を確実に確保する。また、教職員が安心して健康的に職務に専念できるよう業務改善を継続して実施する。	